下肢静脈瘤の自覚症状に対する3処方（桂枝茯苓丸、五苓散、柴苓湯）の治療効果

済生会横浜市東部病院 外科（血管外科）
（現 仁厚会病院 血管外科 上大岡仁正クリニック 血管外科） 林　忍

下肢静脈瘤の患者愁訴に対し、桂枝茯苓丸、五苓散、柴苓湯は、症状に応じた選択をすることにより、その臨床的有用性をより高められることが示唆された。

はじめに

下肢静脈瘤には倦怠感、疼痛、しびれ等の自覚症状が伴うことは少なくないが、当科ではレーザーやストリッピング手術などの根治的治療の待機期間中、弾性ストッキングによる圧迫療法に加えて自覚症状の軽減を目的として漢方製剤を併用している。

われわれはこれまでに漢方製剤3処方（桂枝茯苓丸[1, 2]、五苓散[3]、柴苓湯[4, 5]）の下肢静脈瘤に対する臨床的有用性につき検討し報告を行ってきた。本稿ではこれまでの結果を総括し、下肢静脈瘤に対する漢方製剤の有用性について若干の考察を加え報告する。

対象と方法（表1）

各臨床研究の対象患者はそれぞれ異なり、桂枝茯苓丸は倦怠感やしびれ等の不定愁訴を有する患者、五苓散は自覚的・他覚的に浮腫を認める患者、柴苓湯は表在性の血栓性静脈炎を併発する患者を対象とした。いずれの試験も弾性ストッキングは全例で併用し、漢方製剤の投与期間は12週間とした。

表1　対象と方法

		桂枝茯苓丸	五苓散	柴苓湯
症例数		30例（男性8、女性22）	21例（男性6、女性15）	12例（男性4、女性8）
対象患者	随伴症状・合併症	不定愁訴（倦怠感、しびれ等）	浮腫	表在性の血栓性静脈炎
	CEAP分類	C3以上		
併用療法		弾性ストッキング		
併用禁止薬			利尿薬	利尿薬
		他の漢方製剤		
投与期間		12週間		

結　果

1）自覚症状の改善

自覚症状はVisual Analogue Scale（VAS）で評価した。いずれの処方も患者の自覚症状を改善したが、処方ごとに相違が認められた。桂枝茯苓丸では「しびれ」が、五苓散では「浮腫」に加えて「冷え」が、柴苓湯では「浮腫」と「痛み」がかなり改善されていたのが特徴的で、特に改善された症状は各々の製剤の効能に合致する傾向が認められた（**図1**）。

2）桂枝茯苓丸による微小循環の改善

桂枝茯苓丸の検討では皮膚灌流圧（skin perfusion pressure; SPP）の変化を検討したが、投与後でその上昇が認められ、桂枝茯苓丸の末梢血流量増加による血流改善作用を確認することができた（**図2**）。

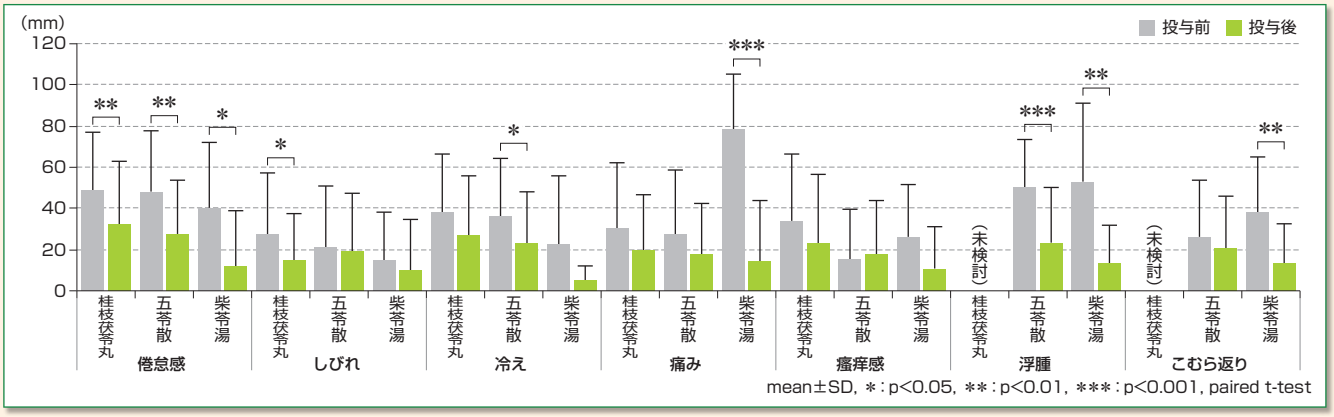
3）五苓散・柴苓湯による浮腫の軽減効果

五苓散、柴苓湯の検討では下肢の周囲径の変化を膝蓋骨上、下腿最大、外踝の3点で計測したが、いずれの処方も投与後で下肢の周囲径は有意に改善した（**図3**）。

4）静脈瘤重症度の改善

Clinical sign、Etiologic classification、Anatomical distribution、Pathophysiologic dysfunction（CEAP）分類で評価した静脈瘤重症度について、桂枝茯苓丸では投与後で有意な改善が認められた。特に色素沈着・湿疹（C4）、浮腫（C3）の改善が認められ、中には2段階の改善が認められた症例もあった。結果的に重症度の改善率が3処方の中で最も高かったのは桂枝茯苓丸であった。五苓散については、色素沈着等（C4）は改善した例も

図1　漢方製剤による下肢静脈瘤自覚症状の改善効果



あったが、浮腫(C3)が完全に消失した症例はなかった。柴苓湯は全体でほとんど変化が認められなかった。

5)効果の性別比較

性別で分類して検討したところ、桂枝茯苓丸は自覚症状、他覚的所見であるSPPともに、改善効果は女性のほうが男性より高かった。五苓散でも自覚症状では女性のほうが男性より効果が高い傾向が認められたが、他覚的所見の下肢周囲径では男女ともに有意に改善しており、男女差は認められなかった。柴苓湯では自覚症状・他覚的所見ともに効果に男女差は認められなかった。

6)血栓性静脈炎合併症例における血栓の状態

表在性の血栓性静脈炎合併症例において、抗凝固薬および抗血小板薬の使用の有無に関わらず、柴苓湯投与後で血栓の消失ないし縮小が認められた。

結果のまとめを**表2**に示す。

考　察

有症状の下肢静脈瘤に対する漢方製剤の選択について、フローチャートを示した(**図4**)。

下肢静脈瘤と診断され、自覚症状を伴い患者が希望する場合は漢方薬投与の対象となり、弾性ストッキングと漢方製剤の併用を検討する。自覚症状がない場合、漢方処方は使用せず、弾性ストッキングのみで治療を行う。自覚症状があり、血栓性静脈炎を伴う症例や疼痛や炎症所見が顕著な症例では柴苓湯が適応となる。血栓性静脈炎や疼痛・炎症所見がみられず浮腫が著しいケースは五苓散がよいと考えられる。それ以外の症例には桂枝茯苓丸が適当と考えられるが、桂枝茯苓丸は男性では自覚症状等の改善効果は乏しかったことから女性のみに用い、柴苓湯や五苓散非適応の男性に関しては、現在は漢方薬の処方は行っていない。

結　語

下肢静脈瘤の患者不定愁訴や浮腫などの症状に対し、漢方製剤3処方(桂枝茯苓丸、五苓散、柴苓湯)は、適切に選択することでその臨床的有用性をより高められることが示唆された。しかし、いずれの検討もsingle-arm studyであるため、漢方製剤の有用性を断定することはできない。今後、RCTを含めたさらなる検討が必要と考えている。

図2　桂枝茯苓丸による微小循環の改善

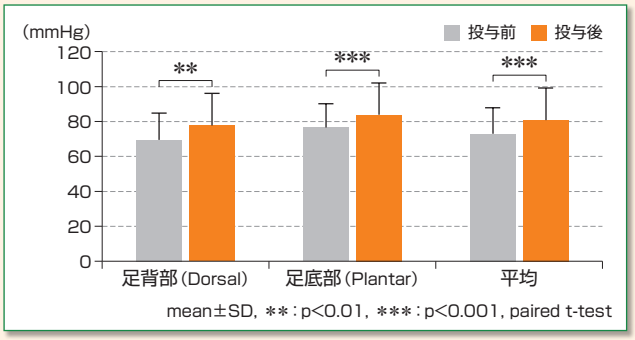


図3　五苓散・柴苓湯による浮腫の軽減効果

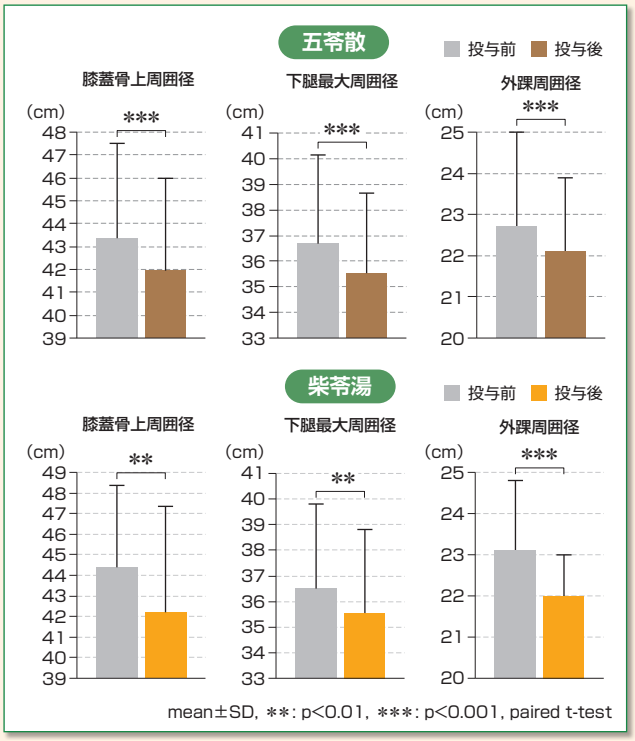
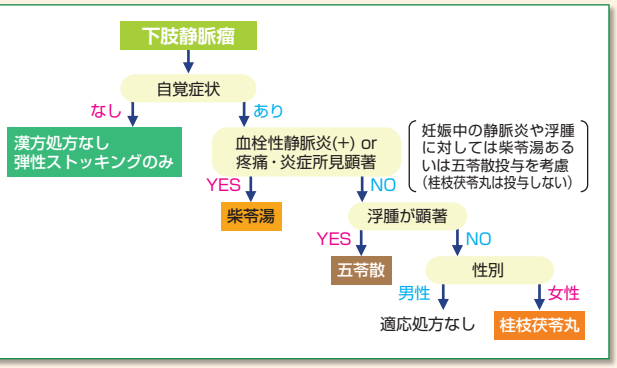


表2　結果のまとめ

		桂枝茯苓丸	五苓散	柴苓湯
自覚症状	倦怠感	○	○	○
	しびれ	○		
	冷え		○	
	痛み			○
	瘙痒感			
	浮腫		○	○
	こむら返り			○
血流(SPP)		◎	−(未測定)	−(未測定)
浮腫(客観的所見)		−(未測定)	◎	◎
静脈瘤重症度(CEAP分類)		◎	○	△
性差(男性<女性)		あり	なし	なし

図4　下肢静脈瘤自覚症状に対する漢方製剤の選択フローチャート



〔参考文献〕

1) 林 忍 ほか: 下肢静脈瘤に伴う不定愁訴に対する桂枝茯苓丸の臨床的有用性の検討, 静脈学, 24(3): 303-310, 2013
2) Hayashi S, et al.: Examination of Clinical Efficacy of Keishibukuryogan on Non-Specific Complaints Associated with Varicose Veins of the Lower Extremity, Ann Vasc Dis, 7(3): 266-273, 2014
3) 林 忍 ほか: 下肢静脈瘤に伴う浮腫に対する五苓散の治療効果, 日本血管外科学会雑誌, 23(5): 831-835, 2014
4) 林 忍 ほか: 血栓性静脈炎を伴う下肢静脈瘤に対する柴苓湯の治療効果の検討, 日本静脈学会学術総会, 2014
5) 林 忍 ほか: 血栓性静脈炎(表在性)を伴う下肢静脈瘤に対する柴苓湯の治療効果の検討, 日本血管外科学会学術総会, 2014